

2025年度 全学共通科目カリキュラムマップ		本学の教育目標に基づき、市民としての良識とたくましい実践力を備えた多彩な職業人を育成します。そのため、以下のような知識や能力、姿勢を身に付けることができるように、各学部・学科等において教育課程を編成し、所定の単位を修得して卒業認定ができた学生に対して、学士の学位を授与します。					
(全学CP1)		全学DP1		全学DP2		全学DP3	
全学共通科目では、幅広い教養の修得や学びの土台づくりのために語学科目・広域科目を編成する。 ・語学科目では、多文化理解を深めるとともにコミュニケーション能力を身に付ける。 ・広域科目では、人文科学・社会科学・自然科学の科目群と、キャリア形成科目において、幅広い教養と生涯にわたって生き抜くための思考力を身に付ける。		新しい時代を生きる職業人として必要な思考力と課題解決能力 ・実践的な思考力を身に付け現代社会の諸問題を発見し、課題解決の道筋を立てること		各学問分野における実学的な専門知識と技能 ・幅広い教養と専門分野に関する科学的な知識・技能を身に付け、社会生活に役立てることができる。		社会とつながり、多様な人々と協働できる人間力 ・多様性を尊重し、主体的に他者と関わり、地域社会・企業社会・国際社会とつながることができる。	
区分/CP	科目名	思考力	課題解決力	知識	技能	主体性	つながる力
必修外国語科目	英語 I a[R&W]	○		◎		○	
	英語 I b[L&S]			◎	○		○
	英語 II a[R&W]	○		◎		○	
	英語 II b[L&S]			◎	○		○
	英語 III a[R&W]	○		◎		○	
	英語 III b[L&S]			◎	○		○
	英語 IV a[R&W]	○		◎		○	
	英語 IV b[L&S]			◎	○		○
	フランス語 I a[講読]			◎	○		○
	フランス語 I b[文法]	○		◎		○	
	フランス語 II a[講読]			◎	○		○
	フランス語 II b[文法]	○		◎		○	
	フランス語 III a[講読]			◎	○		○
	フランス語 III b[文法]	○		◎		○	
	フランス語 IV a[講読]			◎	○		○
	フランス語 IV b[文法]	○		◎		○	
	ドイツ語 I a[講読]			◎	○		○
	ドイツ語 I b[文法]	○		◎		○	
	ドイツ語 II a[講読]			◎	○		○
	ドイツ語 II b[文法]	○		◎		○	
	ドイツ語 III a[講読]			◎	○		○
	ドイツ語 III b[文法]	○		◎		○	
	ドイツ語 IV a[講読]			◎	○		○
	ドイツ語 IV b[文法]	○		◎		○	
	スペイン語 I a[講読]			◎	○		○
	スペイン語 I b[文法]	○		◎		○	
	スペイン語 II a[講読]			◎	○		○
	スペイン語 II b[文法]	○		◎		○	
	スペイン語 III a[講読]			◎	○		○
	スペイン語 III b[文法]	○		◎		○	
	スペイン語 IV a[講読]			◎	○		○
	スペイン語 IV b[文法]	○		◎		○	
	中国語 I a	○		◎		○	
	中国語 I b			◎	○		○
	中国語 II a	○		◎		○	
	中国語 II b			◎	○		○
	中国語 III a	○		◎		○	
	中国語 III b			◎	○		○
	中国語 IV a	○		◎		○	
	中国語 IV b			◎	○		○
	朝鮮語 I a	○		◎		○	
	朝鮮語 I b			◎	○		○
	朝鮮語 II a	○		◎		○	
	朝鮮語 II b			◎	○		○
朝鮮語 III a	○		◎		○		
朝鮮語 III b			◎	○		○	
朝鮮語 IV a	○		◎		○		
朝鮮語 IV b			◎	○		○	
日本語 I a	○		◎		○		
日本語 I b			◎	○		○	
日本語 II a	○		◎		○		
日本語 II b			◎	○		○	
日本語 III a	○		◎		○		
日本語 III b			◎	○		○	
日本語 IV a	○		◎		○		
日本語 IV b			◎	○		○	
日本語 V a	○		◎		○		
日本語 V b			◎	○		○	
日本語 VI a	○		◎		○		
日本語 VI b			◎	○		○	
必修外国語科目合計(1言語)	◎ ○	0 4	0 0	8 0	0 4	0 4	0 4
選択外国語科目	TOEIC I	○		◎		○	
	TOEIC II	○		◎		○	
	TOEIC III			◎		○	
	英語コミュニケーション I		○		◎		○
	英語コミュニケーション II		○		◎		○
	ビジネス英語 I			◎		○	◎
	ビジネス英語 II			◎		○	◎
	フランス語演習			◎		◎	◎
	ドイツ語演習			◎		◎	◎
	中国語演習(会話)			◎		◎	◎
	中国語演習(作文)			◎		◎	◎
	中国語演習(文法)			◎		◎	◎
	スペイン語演習			◎		◎	◎
	朝鮮語演習			◎		◎	◎
語学研修			◎		◎	◎	
資格英語 I	○		◎		○		
資格英語 II	○		◎		○		
外国語特殊講義			◎		○		

区分/CP	科目名	思考力	課題解決力	知識	技能	主体性	つながる力
選択外国語科目合計	◎	0	0	4	11	0	2
	○	4	3	10	6	0	10
①思想と文化	哲学入門	◎			○	○	
	現代と哲学	◎	○	○		○	
	心理学入門	◎	○	○			
	現代の心理学	◎	○	○			
	倫理学入門	◎		○			○
	現代の倫理	○	◎	○			
	現代と宗教		○	◎			○
	人文地理学	○	○	◎			
	教育学入門	○		◎		○	
	現代と教育	◎	○	○			
	芸術学入門			◎		○	○
	美術史	○		◎		○	○
	日本文化論	○	○	◎		○	
	日本語表現	◎	○		○		
文学入門	◎		○		○		
日本の文学	◎		○		○		
中国の文学	○		◎			○	
欧米の文学	○		◎			○	
①思想と文化合計	◎	9	1	8	0	0	0
	○	7	8	8	2	7	6
②歴史と社会	歴史学入門	◎	○	○			
	日本の歴史	○	○	◎			
	アジアの歴史	○	○	◎			
	ヨーロッパの歴史	○	○	◎			
	政治学入門	○	○	◎		○	
	現代の政治	○	○	◎		○	
	法学入門	○		◎		○	
	現代の法	○		◎			
	日本の憲法	○		◎			○
	経済学入門	○	○	◎			
	現代の日本経済	○	○	◎		○	
	経営学入門	◎		○			
	現代のビジネス	◎	○	○			
	社会学入門	○		◎	○		
	現代社会論	○		◎		○	
	考古学	○	○	◎			
民俗学	○		◎			○	
大阪の経済と文化			◎			○	
大阪経済大学の歴史	○		◎		○	○	
②歴史と社会合計	◎	3	0	16	0	0	0
	○	15	10	3	1	6	4
③健康とスポーツ	スポーツ方法学				○	○	◎
	レクリエーション方法学				○	○	◎
	スポーツ実技A				○	○	◎
	スポーツ実技B				○	○	◎
	スポーツの理論	○		◎		○	◎
	レクリエーションの理論	○		◎		○	
健康増進の理論	○		◎		○		
③健康とスポーツ合計	◎	0	0	3	0	0	4
	○	3	0	0	4	7	0
④自然と生活	地理学入門	○	○	◎			
	地誌	○	○	◎			
	自然科学概論	○		◎			
	科学史	○		◎			
	数学入門	◎	○				
	現代の数学	◎	○				
	物理学入門	○		◎		○	
	現代と物理学	○		◎		○	
	化学入門	○	○	◎			
	現代と化学	○	◎	○			
	宇宙の科学	○		◎		○	
地球の科学	○	○	◎				
自然地理学		○	◎		○		
生物学入門	○		◎	○			
④自然と生活合計	◎	2	1	11	0	0	0
	○	11	7	1	1	4	0
⑤データサイエンスと数理	データサイエンス概論	○	◎	○	○	○	○
	統計学入門	○	◎	○	○		
	現代と統計	○	◎	○	○		
⑤データサイエンスと数理合計	◎	0	3	0	0	0	0
	○	3	0	3	3	1	1
⑥キャリア形成科目	キャリアデザイン	○	○		○	◎	○
	プレゼンテーション入門	○	○		◎	○	○
	論理的思考入門	◎	○		○	○	
	日本語表現演習(書き方)	○		○	◎		○
	日本語表現演習(話し方)	○		○	◎		○
	社会人基礎学力I	○		○	◎		
社会人基礎学力II	○		○	◎			
⑥キャリア形成科目合計	◎	1	0	0	5	1	0
	○	6	3	4	2	2	4
⑦共通特殊講義	共通特殊講義						
⑦共通特殊講義合計	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	0	0	0	0	0
全学共通科目合計	◎	15	5	50	16	1	6
	○	53	31	29	23	31	29

これらの教育課程について、「大阪経済大学アセスメント・プラン」に基づき、様々な角度からの評価（試験・レポート、小テスト、外部アセスメントテスト等）をすることにより学修成果を把握します。  
 また、教育課程における各授業科目については、シラバスに到達目標を定めどのように評価するかを記載することで質を保証するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握します。

